



# 郷土のかぜ

仙台市民図書館 郷土資料コーナーから

## JAZZを愛し、JAZZに愛されるまち、仙台

仙台市民図書館副館長 伊勢 貴

はじめまして。この4月に市民図書館副館長として着任いたしました。3月までは3年間、太白区にて住民が主体となった地域づくりの支援や、本市南部の広域拠点である長町地区の賑わい創出等に取り組んできました。その中で、八木山地区まちづくり研究会様の活動に触れる機会を数多くいただきました。八木山地区では若い世代や子どもたちも巻き込んで、新進気鋭のジャズミュージシャン等とのコラボによるイルミネーションイベントが年数回ほど開催されています。夜更けの公園をほのかに照らす月あかりの下、星の煌めきのごときイルミネーションに彩られ、ほどよく枯れたジャズの音色が空に溶けていきます。イベントは短い時間ですが、お集まりの地域の皆さんはいい笑顔で帰路に就かれます。

さて、最近、ジャズの話に触れることが多くなりました。仙台出身の主人公が世界一のジャズプレーヤーを目指す漫画『BLUE GIANT』はご存じでしょうか。1～4巻の仙台編では見知った風景や全国的にも知られる定禅寺ストリートジャズフェスティバルの場面も登場します。昨年は映画にもなり、ちょっとしたブームを巻き起こしました。小説好きの方には主人公の友人を主演に据えた『ピアノマン BLUE GIANT 雪祈の物語』をお勧めします。涙腺崩壊にご注意を。

また、『かしむのなしは』、『仙台ジャズ物語』、『仙台ジャズノート』など、仙台とジャズの深い関係性を著した書籍が相次いで出版されています。仙台がなぜ戦後ジャズの発祥の地と言われ、いかにジャズの街として育っていったのか、これらの書籍から紐解いてみるのも一興です。

新しいジャズイベントも生まれています。2022年、2023年には「かしむのなしは」の著者である白津氏を中心となり、戦後から現代に至る仙台のジャズの歴史をたどるトークとコンサートのイベントが、また、2023年、2024年には、若手サクソ奏者K氏の主催による仙台ジャズ史に触れライブを楽しむイベントが開催されました。K氏は今後も定禅寺通界隈を中心にジャズに触れるイベントを定期的で開催されるそうで、楽しみです。ということで、静かに盛り上がりを見せる仙台ジャズシーン。遅れをとるな、とばかりに、市民図書館でもなにやら8月あたりにジャズにまつわるイベントを企画中のようです。そちらもどうぞお楽しみに！

### <参考図書>

『BLUE GIANT 1～4』 石塚真一/著 S721

『ピアノマン BLUE GIANT 雪祈の物語』 南波永人/著 913.6ナ

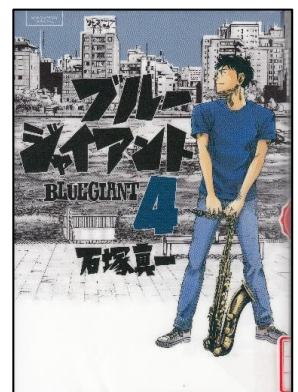
『かしむのなしは 仙台ジャズの歴史』 白津守康/著 S764シ

『仙台ジャズ物語 楽都仙台と日本のジャズ史』 岡本勝壽/著 S76オ

※『仙台ジャズノート 暮らしの中で芽吹くオト、つなぐオト』 佐藤和文/著  
(宮城県図書館所蔵)

※八木山地区まちづくり研究会の活動はホームページで発信されています。

URL <https://machi.yagiyama.jp/>



## ■ある日のレファレンスから

三重県の四日市市立図書館から、明治時代に銀行家として活躍した仙台出身の八巻道成<sup>やまきみちなり</sup>という人物について問合せがありました。失礼ながらその名前を存じておりませんでしたので、まずは『仙臺人名大辭書』で調べてみたところ「銀行家。藩士新七郎の子、安政3年11月生、東京に出て、澁澤榮一の門下となり、第一国立銀行の重役として銀行界の重鎮たり」の記載を見つけました。ところが、その他の郷土資料には八巻に関することを見つけることができず、その旨をお伝えしてレファレンスを終了することになりました。

ちなみに八巻道成は、若かりし頃に仙台藩の養賢堂で学び、22歳で東京へ遊学。その後、横浜に移り米国人のヘボン氏の下で英語を学びながら外国人の商取引に目をつけたそうです。そして、渋沢栄一が第一国立銀行を設立すると聞き同行の事務員となり、その後、渋沢の意向で四日市支店長を務めた人物なのだそうです。四日市にいた時代には東洋紡績の前身である三重紡績株式会社のほか、製紙、製油、共立汽船等の諸会社の創立に際し斡旋の労を執るなど地元の商工業の発展に多大な貢献をした方のようにもありました。

(参考：『四日市市史』『日本新豪傑傳』…国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可)

今回は、このレファレンスをきっかけに、この人物を知ることができましたが、地元の人でも知らない埋もれた郷土の偉人がまだまだいると思いますので、この紙面でも度々紹介していきたいと考えています。

## ■新着図書紹介(郷土・参考資料コーナーに新しく入った図書)

### 『読売年鑑 2024年版』

読売新聞東京本社 R059ヨ

読売新聞は知っていても、『読売年鑑』を手にとったことのある方は少ないのではないのでしょうか。新聞社が発刊する総合年鑑は、今やこれだけになってしまいました。

2023年の日本・海外の10大ニュースや流行語、また過去のデータ欄には歴代内閣、文化勲章や芥川賞・直木賞など様々な賞の受賞者も掲載されています。スポーツの記録や分野別人名録もあり、調べもので使うのはもちろんのこと、ただパラパラとページをめくるだけでも楽しめます。

市民図書館では、昭和37年版から『読売年鑑』を所蔵していますので、ご覧になりたい方は、カウンターへどうぞ!(昭和38年版、45年版、48年版は欠号です)

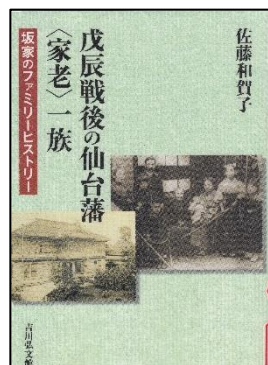


### 『戊辰戦後の仙台藩<家老>一族 坂家のファミリーヒストリー』

佐藤和賀子/著 吉川弘文館 S28サ

幕末の仙台藩で奉行(仙台藩では藩政の最高責任者を「奉行」と言うそうです。一般的には「家老」なので、あえて書名に家老を使ったとのことです。)の役職にあった坂英力<sup>さかまゐりきとさきひで</sup>時秀。同じく奉行だった但木土佐成<sup>ただきとさなりゆき</sup>行と共に、戊辰戦争で明治政府に抵抗した仙台藩の責任を負い、斬首の刑に処せられました。英力の死後、残された母と妻、そして6人の子どもたち。本書は、<逆賊>の汚名を着せられ、一家離散を余儀なくされた家族3代の、幕末から昭和の戦後まで、日本の近代史とともに描きだしています。

ちなみに、多賀城市下馬駅前にある坂総合病院(住所は塩釜市)は、英力の三男・定義が1912年に開設した病院(当時は私立塩釜病院)だそうです。



■編集後記■ 仙台の老舗書店「金港堂本店」が残念ながら2024年4月30日に閉店しました。主な理由は建物の老朽化ということだそうですが、仙台で創業した金港堂は明治時代、教科書発行量が日本一といわれた「日本橋金港堂」ののれん分けだったことをご存じでしたか。4階郷土資料コーナーには関連する資料がありますので、4階カウンターの職員にお聞きになってみてください。

発行: 仙台市民図書館 郷土・参考資料コーナー  
所在地: 仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク内 TEL: 022-261-1585